



小橋敏弘の ニッポン大好き!Hello Japan ヨーロッパ在住40余年、外から見ていた日本!

Vol.23 アルプスの見えるスイスの老人ホームの実情



とると、こう言った病気のために入居した老人が、たまたまフランス語が母国語の場合、入居してきた老人ホームがドイツ語圏にあつたため、入居前まで話していたドイツ語を忘れ、幼少のころのフランス語しか記憶がなくなり、施設のスタッフとのコミュニケーションが取れなくなったケースも実際にホームで働いている知り合いから聞きました。

これは稀なケースですが、多言語を公用語に持つスイスならではの話でした。さて筆者のようない日本国籍でパスポート等に記入されている本籍が日本の場合にはどうなるかは、まだ確認を取っておりませんが、本国送還とかなつたら大変だなあと一抹の不安をぬぐい切れないのも事実です。

高級老人ホームの 費用は?

さて、ここからはもっと具体的に、入居費等の金銭面のスイス事情を簡単に説明させていただきます。一人入居、または稀ですがご夫婦で入居される場合に多少の違いがありますが、基本的には入居費は「一部屋に付き」が原則になっているようです。

また、入居費用は月々で請求されます。但し、その月々めの入居料金は平均価格が11000.-スイスフラン(日本円で為替のレートが1スイスフラン約180円)です。この180万円ざっと200万円の入居料金が毎月請求されると言う事です。

では一般的にこのような高額な入居費を、普通のスイス人は一体どうやって捻出しているのでしょうか。

たとえリッチなスイス人でも、こんなにキャッシュポジションが高い人はまれです、が一生懸命何十年も働いた末に持ち家を所有している場合、まずはその財産を処分せられるケースがあることを身近な人から聞きました。

例えば、不動産を処分した資産が1億5千万円あつたとしても、前記の毎月の入居費が200万円でしたのでトータルで25か月分、つまり625年分しか支払わない計算になります。40年以上働いてやっと稼いで購入した家も、入居6年あまりで使い果たしてしまう計算になります。加えて入居費以外にかかってくる費用があるのが、これまた非常にスイス的です。

たとえば入居者が病気になる場合、医療費は医療保険から支払われますが、かかりつけの医師までだれが同伴するか、家族にホームから連絡があり、家族が連れていけない場合は医師までの搬送費は有料、数か月に一度の散髪料金も別料金がかかり、爪切りもこれまた別料金がかかります。朝昼晩の食事は入居料金に含まれておりますが、それ以外に例えば夜食とか小腹がすいたのでサンドイッチを入居者が希望する場合も有料になります。車いすを外を散歩する

場合も、多くの場合は家族が付き添います。ナースが付き添う場合には有料になるからです。

筆者の妻も昔、老人ホームに勤務していたことがありましたが、とにかく入居者と話をする時間もないぐらい、ナースの数に比べて入居者数が年々増えている実情が裏にはあるようです。

日本のNHK等でテレビ報道されているカラオケタイムとか軽い運動、ダンスと言った風景はあまりと言つて、ほぼスイスでは見かけません。

非常に悲しい話ですが、ホームに入居すると言う事は、第二の人生とかではなく終活、つまり死ぬために入居していると言う現実を口には出さなくとも入居者も家族の人たちは頭の中では理解しているんでしょうね。

悲しいエンディングになりましたが、これがスイスの老人ホームの現状です。

今回も読んでいただき有難うございました。

まだまだホームの世話にはならないぞと毎日愛犬Ellaと散歩をしながら足腰の老化現象と闘っている小橋でした。バイバイ

※今回の実話には語り手の主観や感情は含まれていません。



写真/筆者(右)と妻

profile 小橋敏弘

年齢、もうすぐ70歳。

1975年からヨーロッパ在住。その大半はスイスの企業にてサラリーマン生活をし、64歳からリタイア生活をエンジョイしています。

学生時代をイギリスで過ごし、大学卒業後はスイスに移住。孫6人に囲まれている爺さんです。

趣味は何にでも興味を持ち、最近ではChat GTPを駆使して、幅広い分野を勉強中。

母国語日本語を再勉強しながら、ドイツ語、英語も同時に駆使し、ヨーロッパ各国に住んでいる友達とコミュニケーションを取っています。

唯一、体を動かす趣味は、ここ10年ほど毎週一回ぐらいのペースでやっておりますCountry Line Danceです。